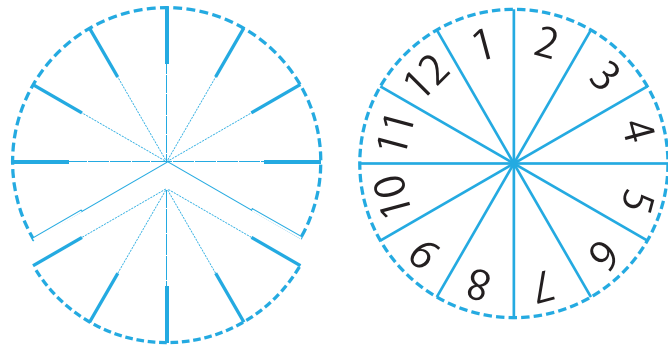
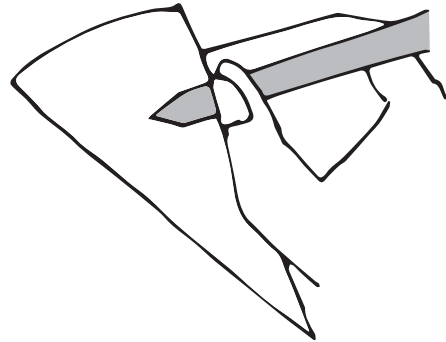


作り方

- 1** 型紙と絵描き用紙を準備します
絵描き用紙はパーツごとに切り分けます



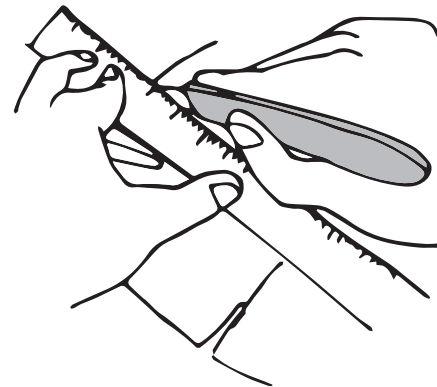
- 2** 絵描き用紙に絵を描きます



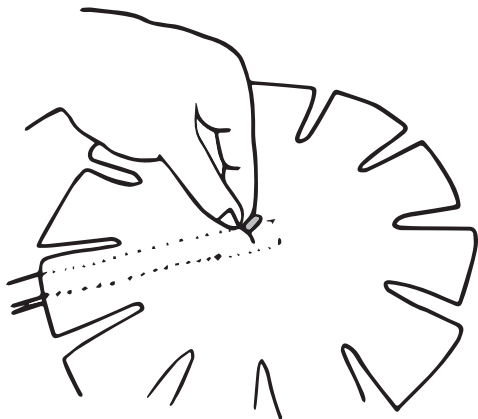
- 3** 黒画用紙を型紙の大きさに切り抜き、型紙に張り付け、その裏に2の絵描き用紙を番号順に貼ります



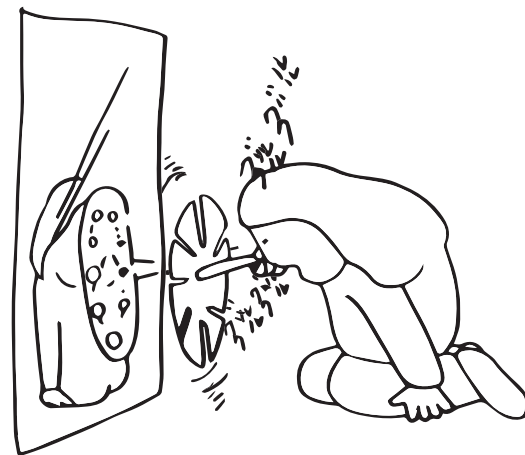
- 4** 絵描き用紙の黒い部分（スリット）を切り抜きます



- 5** 4で出来上がった盤の中央に割り箸をあて、絵の描いてある面から押しピンでとめます



- 6** 出来上がったら鏡の前で回して、スリットから鏡を覗いてみましょう

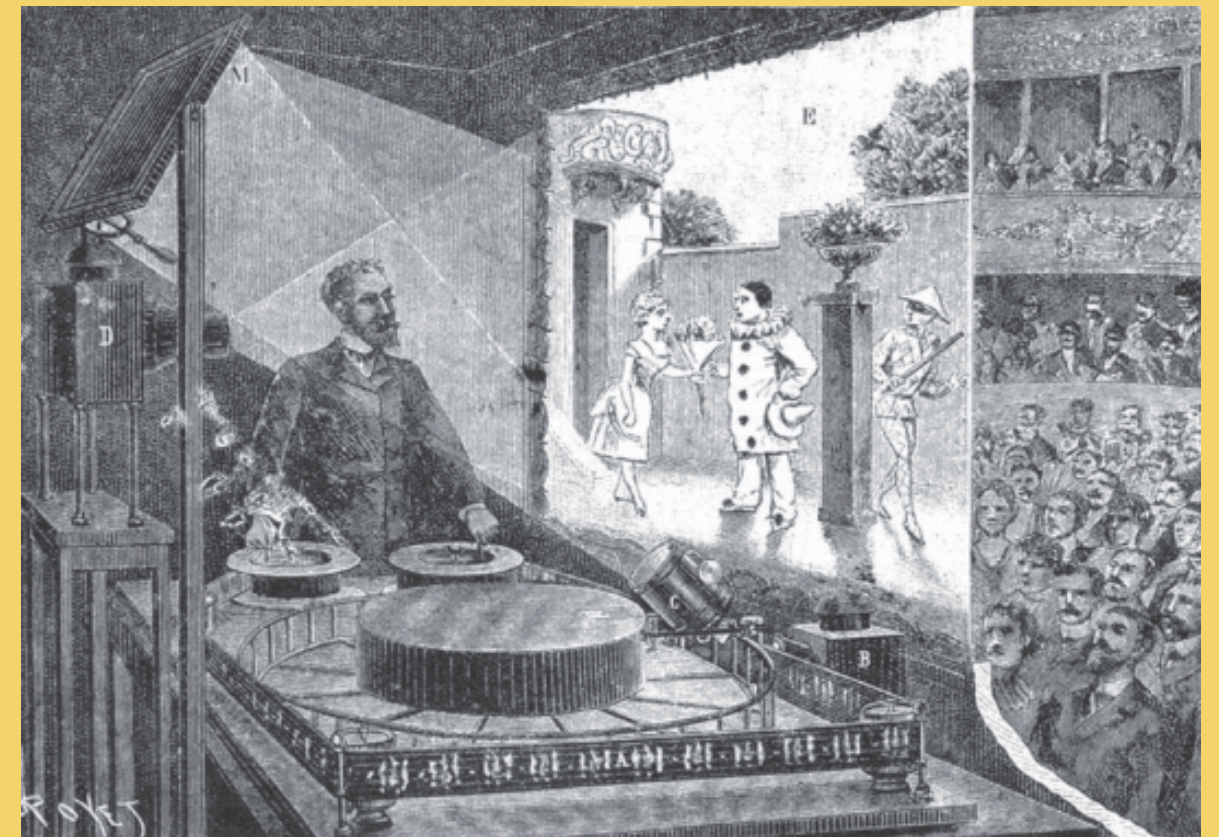


世界初の映画は、アニメーションだった！？

フィルムの画家、奇才エミール・レイノーの栄光と悲しみ

今日、映画は大衆娯楽として商業的に大成功を収めています。アメリカのハリウッドだけでも年間約 1 兆円の売り上げがあり、映画館数は約 40,000 スクリーンとされています。その最初の上映は、ちょっと風変わりだったフランス人の発明家エミール・レイノー[1844～1918]によるものでした。レイノーは自然科学の教授でもあり、それまでに多角形状に鏡を貼ってドラムの内側に配置したブラクシノスコープという光学的技術によるアニメーションの装置を製作していました。そして、1888 年に世界最初の映画館の原型となる形のテアトル・オブティーク（光学劇場）を完成させます。テアトル・オブティークとは、セルロイド製の長い帯に一つずつ送り穴をつけてフレームを作り、そこに絵を描いて用いたものでした。これはまさにアニメーションの原理であり、フィルムに一つ一つ絵を描いているということになります。レイノーはこれで特許を申請し、翌年の 1 月 1 4 日にフランス特許として認められます。その後、1892 年の 10 月 28 日からは、パリのモンマルトル大通りにあるグレヴァン博物館の " 幻想の間 "（キャビネ・ファンタスティック）でこの活動画の興行を行いました。

この時のプログラムである『うまいビール』は、なんとフィルム長 50 メートル（700 コマ）で、上映時間は 15 分でした。そのほかにも『道化師と犬』フィルム長 22 メートル（300 コマ）や、『哀れピエロ』フィルム長 36 メートル（500 コマ）があり、全部で 3 本ありました。1892 年から 1900 年のあいだで、グレヴァン博物館では 12,800 回の上映が行われ、50 万人の人々が見物に訪れました。



レイノーの活動画は単なる風景や動く絵ではなく、内容があり、奇妙な魅力を持っていました。どことなく幻想的な登場人物たちが、奇妙な静止した空間の中を動き回る非現実性のせいであつたと言われています。誰もがなしえなかった、素晴らしい彩色された活動画の上映を行い、トーキー（有声映画）を暗示するような音が出る仕組みも作っていました。しかし彼は、競争相手に追い抜かれ、なに一つうまくいっていない自分に腹を立て、1910 年のある夕方、その憂鬱から今までのフィルムの大部分をセーヌ河に投げ捨ててしまいました。そしてその後、1918 年イヴリーの療養所で亡くなってしまいます。

彼は魅力的な空想家であり、たくさんの試みに取り組み、たくさんの失敗と成功を繰り返していました。その多くが、今も多くの人に愛される映画の誕生へ貢献していることは言うまでもありません。

参考文献：映画の考古学（フィルムアート社）